キリスト教たんぽぽ教会　礼拝宣教ガイド　2020/4/19

「誠実に生きる祝福」(詩篇26篇)

牧師：原　雅幸

序）詩篇を学ぶ意味と目的

・詩篇は 150 篇あり、5 つのブロック（巻）に分かれている。
・詩篇は基本的に「祈りの言葉」⇔祈りが出てくる生き方がある。
➡祈りは私たちのたましい（心と生活）の状態を映し出す。
＜神を知る＞⇔＜生き方が変わる＞⇔＜祈りが深まる＞

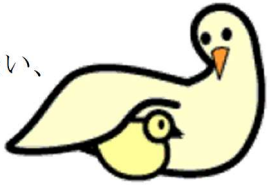
1）危機の時の祈り～詩篇 26 篇が祈られる状況～

・危機の時に生まれた祈りが、礼拝に備える祈りとして祈り継がれたもの。
➡具体的なピンチ（それは大変ではあるが）は実は表面的なもの。本当の危機は「神を信じて何になるのか」という声に負けてしまうこと。礼拝に向かう私たちの心に多かれ少なかれよぎる誘惑である。
⇒詩篇 26 篇はこの危機の現実の中で勝利するための武器である。

2）「さばき」と「誠実」～詩篇 26 篇のキーワード～

・「弁護してください」＝直訳「さばいてください」(ヘブル語シャファット)
・神のさばきは良いものである。「自らをさばいてください」と神の前に申し出ることこそ、「誠実に　よろめくことなく　主に信頼する」こと。
・「誠実」＝integrity（完全・統合）＝裏表のない生き方。生き方の一貫性
・礼拝と日常生活の統合は、今も昔も変わらない人間の課題である。
➡できているかどうかは二次的なこと。一貫していたいと願う心の態度こそが誠実の分かれ目。神のさばきに自らを開けば、課題が見つかるかもしれない。けれども、神はその課題をふさわしく正すことができる。
・神の「真理（エメト）」＝神の誠実（変わることのない信頼性）を知るとき、人間は誠実な歩みを志すことが可能になる。

3）「弁護してください」～救出を求める祈り～



・「さばき」のうちに含まれる「弁護」とは、信仰のない、不信実な人との「区別」を神がつけてくださること。
・「贖い出す」とは、神が「保護者（弁護者）」となって「力を発揮し（危機的状況から）解放する」こと。
・危機のすべてが「身から出た錆」ではない。信仰の有無にかかわらず危機はやってくる。詩篇 26 篇は、そこから先に区別を求める祈りである。

結）祈りの答えは願い通りでなくても～たとえそうでなくても～

・神の誠実という真理を受け取り、私たちの誠実を手放さずに歩もう。

キリスト教たんぽぽ教会　こども礼拝ガイド　2020/4/19

名前(＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)

① 「誠実」という言葉を知っていますか。どんな意味か選んでみましょう。

(　　) いっしょうけんめい　という意味
(　　) だれと一緒にいるか、どこにいるかで態度がころころ変わること
(　　) 何があっても、あきらめない　ということ
(　　) 信頼をうらぎらない　ということ
(　　) 神さまに対して正直に生きる　ということ
(　　) 自分の言葉で言うと＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ということ

② あなたの周りで「誠実」だと思う人はいますか。自分はどうですか？

③ ピンチのとき、あなたのことを守ってくれるのは、だれですか。

☆礼拝の後にやってみよう☆

ルカの福音書18章10節～13節を読んでください。2 人の登場人物のうちどちらが「誠実な人」かを考えましょう。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

みんなで一週間考えてこよう！

～教会クイズ（教理問答）～

Q002　なぜ神さまを知ることが最も大切なのですか。

A002　なぜならわたしたちは、神さまを

□□ために□□□□□□□からです。

□□ヒント□□　使徒 17:22～27、創世記 1:26～31a、創世記 2:7～8、21~25、詩篇 102:19～23、出エジプト記 31：12~13、ホセア書 6:1～6、コロサイ 1:9～12